

12月 4日公示
12月 16日投票

総選挙で消費税増税の中止の審判を！

秋の学習会で怒りが巻き起こった消費税の欠陥

消費税は預かり金ではない

「…消費者が事業者を支払う消費税分はあくまで商品や役務に対する対価の一部としての性格しか有しないから、事業者が、当該消費税分につき過不足なく国庫に納付する義務を、消費者との関係で追うものではない」（東京地裁平成2年3月26日判決）

消費税は転嫁できない！

- 「きちんと転嫁」 25.3%
- 「一部だけ転嫁」 26.6%
- 「まったくできない」 30.5%

新潟民商の婦人部アンケート結果

徹底した大企業優遇税制

■輸出大企業には戻し税

大企業が輸出する際に、払った消費税分を還付する仕組みです

平成21年分 輸出大企業還付金額（単位：億円）

①トヨタ自動車	2,106	⑥本田技研工業	656
②ソニー	1,060	⑦パナソニック	648
③日産自動車	758	⑧マツダ	592
④キャノン	722	⑨三菱自動車	412
⑤東芝	721	⑩新日本製鉄	339

平成21年分 消費税収が赤字の主な税務署

税務署名	赤字金額
豊田税務署（愛知）	▲1,154億円
海田税務署（広島）	▲304億円
神奈川税務署（神奈川）	▲280億円

豊田税務署はトヨタ、海田税務署はマツダ、神奈川税務署は日産の所在地です。

9月からの短期間に5千筆を突破する増税中止を求める署名が集まっています

支部名	人数	署名数	1会員あたり
関屋	8	34	1.4
上	6	17	0.5
中央	2	10	0.3
料飲	6	227	3.7
しもまち	9	280	3.6
米山			0.0
流作場	5	614	27.9
万代			0.0
沼垂			0.0
駅前	7	139	8.0
女池	29	223	2.6
山潟	13	79	1.8
曾野木	3	48	0.9
亀田	25	741	10.4
大江山	12	604	13.7
中央	125	3,016	4.5
木戸	30	575	5.1
大形	10	106	1.0
石山	61	686	6.9
山ノ下	28	114	2.0
東山ノ下	10	203	2.4
太平	11	59	0.9
松浜	2	9	0.1
南浜	7	14	0.3
北東	159	1,766	2.8
西内野	7	27	1.0
中野小屋	2	8	0.4
内野	5	136	6.8
寺尾	5	17	0.3
小針	19	262	3.0
黒埼	2	8	0.3
白根	45	117	1.4
赤塚	2	60	7.5
西	87	635	1.9
その他			0.0
合計	371	5,417	3.3

「消費税増税許したら商売続けて行けない」
の声を巻き起こっています！

全会員が1会員
1〇署名を広げよう！
増税中止させるにはこんな選択がいいか仲間と話合いを広げよう！

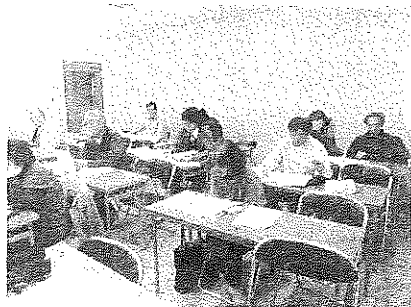


新潟民商

新潟民主商工会
新潟市中央区沼垂西3丁目10-14
電話 (243) 0141

12年12月3日

一月二二日に女池支部は記帳学習会を開催して一三名が集まりました。支部では一年間に一人名の入会があり、今年は申告前に記帳学習会が必要と役員会で相談し開催となりました。会には「税理士に依頼しているが自分で記帳を把握したい」と言っていた読者も参加しました。皆で例題に沿って自主計算ノートをしい所得を出して、申告書を書き上げました。納税者の権利学習では、国税通則法改悪の中身や民商に入っている税務調査の様子を交流。債権管理課から通知が来ている会員も参加していたので納税緩和措置の法律や、民商で債権管理課と交渉した時の様子なども商工新聞の記事を使って話し合いました。



商工新聞読者で参加した人はその場で入会申込書を書いて「次回の一八日の学習会にも必ず参加したい」と言っていました。最後に島田支部長は「困って人がいたら、近くの役員か事務局に声をかけて欲しい学習会や支部の集まりには積極的に参加して欲しい」と訴えました。

大江山支部では一月二六日に環境改善センターにて、母親大会報告会を開催しました。婦人部員の参加は六名、婦人部長、事務局二名の合計九名が参加しました。初参加の婦人部員に加えて婦人部入部候補の人にも参加し、その場で婦人部に入部してもらいました。

婦人部長からは組織の説明(全国組織から支部婦人部まで)をしてもらい、事務局からは会員、商工新聞の拡大について話をしました。その後、昼食をとり日常生活の話題など楽しい時間を過ごしました。

女性ならではの集まりで楽しく活動して行きたいとの婦人部長の掛け声にみんな共感していました。また若い世代の婦人部員の参加に、少し先のことも考慮した世代交代についても話題となりました。



業者婦人から見た「消費税増税」「市債権管理課の対応」「原発ゼロ」について活発な意見交換が行われました。支部ではこの集会で各自、何かを持ち帰ることが出来たと自信を深めました。ここをきっかけに今後の婦人部の活動をよりよいものにしようと話し合っています。

大腸がん健診で 昨年を上回る受診数!

新潟民商共済会

1月6日に実施された第14回「大腸がん検診」は、受診者841名(昨年835名)でした。昨年は全商連創立60周年で、とりわけ力を入れて取り組みましたが、今回も各支部が大いに奮闘していただき、昨年を上回る受診数となりました。陽性(血液反応あり)の方は4.6%(23名)で、昨年の5.8%より良い結果となりました。

共済会としては特に会員の受診促進に力を入れてきましたが、昨年の25%受診よりやや後退し、23%(393名)にとどまりました。その中で、役員を中心とした流作場支部の取り組みが光りました。会員受診率63%(昨年13%)で、丁寧な全会員訪問対話が会員の受診率を大幅に高めました。

現在、共済会役員を中心に受診者への「結果返し」が始まっています。陽性の方には『再検査費用5000円助成について』の案内も入っています。これは新商連(県連)共済会からの昨年のみの助成でしたが、強い要望に応え今年も助成が決定したものです。助成を受けるには、共済会加入者であることなどの条件がありますが、大事なことは陽性の方から早く再検査をしてもらうことです。昨年の反省点は、陽性の方で再検査費用を請求された方が5割の方しかいなかったことです。残りの5割の方の健康が心配されます。

今年は共済会役員を始め、関係者のみなさんの早い丁寧な対応をお願いします。

